

宗勢調査にみる日蓮宗の現状と課題

地域社会との関わり

岩田親静

はじめに

昨今出版された本の中に『お寺の教科書』がある。その前書きに下記のような表現が存在する。

「なぜそんなに広くお寺とご縁のある方に読んでいただきたいのかと言えば、これからの時代に求められるお寺は「みんなのお寺」だからです。未来の住職塾に集まる数多くのお寺の事例を研究する中で、ある意味ではお寺の原点とも言えるような、開かれたコミュニティを基盤とするお寺の姿が浮かびあがってきました。

世の中が不安定で変化の早い現代、お寺もさまざまな危機にさらされていることは、読者の皆さんも日々お感じになつておられると思います。少子高齢化、人口減少、過疎化、地縁・血縁の崩壊、檀家の寺離れ……今までお寺がやってきたことをこれからもそのままやっていけば大丈夫という時代はすでに終わり、お寺も「選ばれる」時代に入りつつあります。今はまだ日本全国に七万ほど、コンビニの数よりも多いと言われるお寺ですが、その数が逆転するまでそう長くはかからないかもしれません。

「これからのお寺、どうしたらいいのか」という不安をお持ちの方が増える中、現状をしっかりと見据えた上で、

地に足のついた一歩を力強く前向きに踏み出す支援をしたい。そして、お寺を軸に地域コミュニティが活性化され、人々が生きる喜びを取り戻して欲しい。(松本紹圭・井出悦朗『お寺の教科書』二〇一三年 徳間書店 四・五頁)

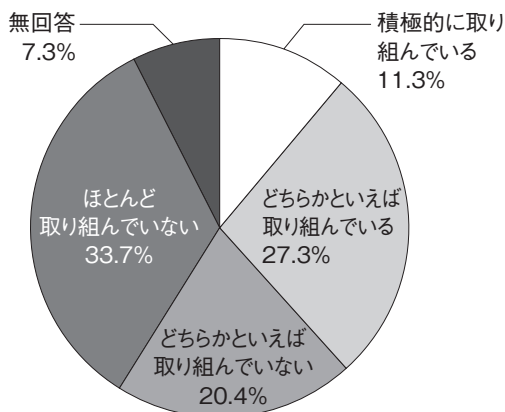
前記の文章はお寺の未来塾を開催している松本紹圭師(浄土真宗本願寺派僧侶)の言葉ですが、「少子高齢化、人口減少、過疎化、地縁・血縁の崩壊、檀家の寺離れ」といった課題を見据えた上で、「お寺も「選ばれる」時代」に入りつつあると指摘した上で「お寺を軸に地域コミュニティが活性化」されるといふことの必要性を述べています。

『宗勢調査報告書 日蓮宗の現状 平成二十四年度』はすでに宗報に掲載されています。大まかな報告はその中で行われています。前回の報告が平成十六年であることから、八年を経て、設問の変化もあります。ここでは特にA票(寺院・教会・結社及び住職・担任・教導について)で新設されたQ29「あなたの寺院では地域社会における住民との交流(地域コミュニティ)に取り組んでいますか。」を中心に検討していきます。

一、Q29「あなたの寺院では地域社会における住民との交流(地域コミュニ

ニティ)に取り組んでいますか。」

(今後「Q29 地域コミュニティ活動への取り組み度」と省略)の結果について



Q29 地域コミュニティ活動への取り組み度 ×
Q3 現在の檀家戸数

	積極的に 取り組ん でいる	どちらか とえば 取り組ん でいる	どちらか とえば 取り組ん でいない	ほとん ど取 り組 んで いない	総 計
なし	7 4.24%	18 10.91%	21 12.73%	119 72.12%	165 100.00%
1～10戸	21 8.30%	47 18.58%	37 14.62%	148 58.50%	253 100.00%
11～30戸	42 9.79%	102 23.78%	88 20.51%	197 45.92%	429 100.00%
31～50戸	43 10.89%	102 25.82%	95 24.05%	155 39.24%	395 100.00%
51～100戸	87 13.02%	194 29.04%	160 23.95%	227 33.98%	668 100.00%
101～150戸	61 12.84%	160 33.68%	121 25.47%	133 28.00%	475 100.00%
151～200戸	36 11.04%	112 34.36%	71 21.78%	107 32.82%	326 100.00%
201～300戸	52 13.61%	138 36.13%	90 23.56%	102 26.70%	382 100.00%
301～400戸	32 14.35%	91 40.81%	44 19.73%	56 25.11%	223 100.00%
401～500戸	22 20.56%	31 28.97%	27 25.23%	27 25.23%	107 100.00%
501～600戸	12 23.53%	17 33.33%	14 27.45%	8 15.69%	51 100.00%
601～700戸	5 19.23%	11 42.31%	5 19.23%	5 19.23%	26 100.00%
701～800戸	5 23.81%	8 38.10%	7 33.33%	1 4.76%	21 100.00%
801～900戸	4 40.00%	4 40.00%	1 10.00%	1 10.00%	10 100.00%
901～1000戸	1 14.29%	2 28.57%	0 0.00%	4 57.14%	7 100.00%
1001戸以上	6 26.09%	11 47.83%	1 4.35%	5 21.74%	23 100.00%
総 計	436 12.24%	1048 29.43%	782 21.96%	1295 36.37%	3561 100.00%

二、クロス集計

下記のように「積極的に取り組んでいる」、「どちらかと言えば取り組んでいる」の二つの選択支を合わせると三八・六％になる。約四割弱が取り組んでいると言える。

ここで、私には寺院の規模による地域コミュニティ活動への取り組み度の差は存在するのであろうかという疑問が生れてきました。故に、この結果（Q29）にA票のQ3、「あなたの寺院の檀家数は、現在、何戸ぐらいありますか。」

（今後、「Q3」「現在の檀家数」と省略）をクロス集計してみることにした。結果は下記のごときである。

「積極的に取り組んでいる」、「どちらかと言えば取り組んでいる」の二つの選択支を合わせると四〇％を超えたのが五十一〜百戸（四二・〇六％）、五〇％を超えたのが三百一戸〜（五五・一六％）、六〇％を超えたのが六百一戸〜（六一・五四％）であり、寺院の檀家数が多い方が積極的に取り組んでいるといえる。

これは、檀家数が多いことにより、地域の人々との縁や関係性が多くなり自然積極的に取り組むことにつながっているとは考えられないだろうか？

51~100戸	42.06%
101~150戸	46.52%
151~200戸	45.40%
201~300戸	49.74%
301~400戸	55.16%
401~500戸	49.53%
501~600戸	56.86%
601~700戸	61.54%
701~800戸	61.91%

さらに「Q4. あなたの寺院では、過去八年間、檀家数の増減はありましたか。」（Q4「檀家増減の有無」と省略）とクロス集計してみると

「積極的に取り組んでいる」、「どちらかと言えば取り組んでいる」を「積極的に取り組んでいる」と、「どちらかと言えば取り組んでいる」「ほとんど取り組んでいない」を取り組んでいないとして考えると、増加した方の五二・八〇％が地域コミュニティ活動への取り組みを行っているのに対し、取り組んでいないは四七・二〇％であり、減少した方の三九・八五％が地域コミュニティ活動への取

	積極的に取り組んでいる	どちらかといえば取り組んでいる	どちらかとり組んでいない	ほとんど取り組んでいない	総計
増加した	165 17.78%	325 35.02%	198 21.34%	240 25.86%	928 100.00%
減少した	133 10.27%	383 29.58%	288 22.24%	491 37.92%	1295 100.00%
変わらない	137 10.37%	342 25.89%	293 22.18%	549 41.56%	1321 100.00%
総計	435 12.27%	1050 29.63%	779 21.98%	1280 36.12%	3544 100.00%

り組みを行っているのに対し、取り組んでいないは六〇・一六%を超えた。

このデータからみると、取り組みにより増加するかは不透明であるが、減少防止にはつながっているように思われる。

次に、取り組みのモチベーション（やる気、動機づけ）の一つに後継者問題もあるかもしれないと考えた。そこで、「Q23. あなたの寺院には、後継予定者がいますか。」（今後「Q23「後継者の有無」と省略）とのクロス集計を行いました。

「積極的に取り組んでいる」、「どちらかと言えば取り組んでいる」を「取り組んでいる」とし、「どちらかといえば取り組んでいない」、「ほとんど取り組んでいない」を「取り組んでいない」として考えると、後継者がいるで、四六・六三%が取り組んでおり、五三・三七%が取り組んでいない。

後継者がいないで、三三・五一%が取り組んでおり、六六・四九%が取り組んでいない。

後継者が有る場合の取り組み度には六・七四%の差であるが、後継者がいない場合の取り組み度には三二・九八%の差が存在する。後継者の有無で地域コミュニティ活動への取り組みへの姿勢が変化するのか？それとも後継者があるから（人員に余裕があるから）地域コミュニティ活動への取り組みめるのか？は不明である。

三・三次クロス集計

さらにQ3「現在の檀家数」×Q23「後継者の有無」×Q29「地域コミュニティ活動への取り組み」とのクロス集

	積極的に取り組んでいる	どちらかといえば取り組んでいる	どちらかといえば取り組んでいない	ほとんど取り組んでいない	総計
いる	307 13.87%	725 32.76%	508 22.96%	673 30.41%	2213 100.00%
いない	129 9.46%	328 24.05%	279 20.45%	628 46.04%	1364 100.00%
総計	436 12.19%	1053 29.44%	787 22.00%	1301 36.37%	3577 100.00%

		積極的に取 り組んでい る	どちらかと いえば取り 組んでいる	どちらかと いえば取り 組んでいな い	ほとんど取 り組んでい ない	総 計
なし	い る	2 3.92%	10 19.61%	6 11.76%	33 64.71%	51 100.00%
	いない	5 4.42%	8 7.08%	14 12.39%	86 76.11%	113 100.00%
	集 計	7 4.27%	18 10.98%	20 12.20%	119 72.56%	164 100.00%
1～10戸	い る	12 10.81%	28 25.23%	20 18.02%	51 45.95%	111 100.00%
	いない	9 6.34%	19 13.38%	17 11.97%	97 68.31%	142 100.00%
	集 計	21 8.30%	47 18.58%	37 14.62%	148 58.50%	253 100.00%
11～30戸	い る	21 10.50%	53 26.50%	47 23.50%	79 39.50%	200 100.00%
	いない	21 9.33%	47 20.89%	41 18.22%	116 51.56%	225 100.00%
	集 計	42 9.88%	100 23.53%	88 20.71%	195 45.88%	425 100.00%
31～50戸	い る	24 11.21%	56 26.17%	59 27.57%	75 35.05%	214 100.00%
	いない	19 10.50%	46 25.41%	36 19.89%	80 44.20%	181 100.00%
	集 計	43 10.89%	102 25.82%	95 24.05%	155 39.24%	395 100.00%
51～100戸	い る	59 14.57%	123 30.37%	101 24.94%	122 30.12%	405 100.00%
	いない	27 10.38%	71 27.31%	58 22.31%	104 40.00%	260 100.00%
	集 計	86 12.93%	194 29.17%	159 23.91%	226 33.98%	665 100.00%
101～150戸	い る	51 14.74%	119 34.39%	86 24.86%	90 26.01%	346 100.00%
	いない	10 7.75%	41 31.78%	35 27.13%	43 33.33%	129 100.00%
	集 計	61 12.84%	160 33.68%	121 25.47%	133 28.00%	475 100.00%

		積極的に取 り組んでい る	どちらかと いえば取り 組んでいる	どちらかと いえば取り 組んでいな い	ほとんど取 り組んでい ない	総 計
151～200戸	い る	29 12.45%	80 34.33%	52 22.32%	72 30.90%	233 100.00%
	いない	7 7.61%	32 34.78%	18 19.57%	35 38.04%	92 100.00%
	集 計	36 11.08%	112 34.46%	70 21.54%	107 32.92%	325 100.00%
201～300戸	い る	37 13.07%	107 37.81%	65 22.97%	74 26.15%	283 100.00%
	いない	15 15.31%	30 30.61%	25 25.51%	28 28.57%	98 100.00%
	集 計	52 13.65%	137 35.96%	90 23.62%	102 26.77%	381 100.00%
301～400戸	い る	27 16.17%	77 46.11%	30 17.96%	33 19.76%	167 100.00%
	いない	5 8.93%	14 25.00%	14 25.00%	23 41.07%	56 100.00%
	集 計	32 14.35%	91 40.81%	44 19.73%	56 25.11%	223 100.00%
401～500戸	い る	17 19.32%	29 32.95%	20 22.73%	22 25.00%	88 100.00%
	いない	5 26.32%	2 10.53%	7 36.84%	5 26.32%	19 100.00%
	集 計	22 20.56%	31 28.97%	27 25.23%	27 25.23%	107 100.00%
501～600戸	い る	12 34.29%	11 31.43%	7 20.00%	5 14.29%	35 100.00%
	いない	0 0.00%	6 37.50%	7 43.75%	3 18.75%	16 100.00%
	集 計	12 23.53%	17 33.33%	14 27.45%	8 15.69%	51 100.00%
601～700戸	い る	4 23.53%	6 35.29%	5 29.41%	2 11.76%	17 100.00%
	いない	1 11.11%	5 55.56%	0 0.00%	3 33.33%	9 100.00%
	集 計	5 19.23%	11 42.31%	5 19.23%	5 19.23%	26 100.00%

		積極的に取り組んでいる	どちらかといえば取り組んでいる	どちらかといえば取り組んでいない	ほとんど取り組んでいない	総計
701～800戸	いる	4 25.00%	6 37.50%	5 31.25%	1 6.25%	16 100.00%
	いない	1 20.00%	2 40.00%	2 40.00%	0 0.00%	5 100.00%
	集計	5 23.81%	8 38.10%	7 33.33%	1 4.76%	21 100.00%
801～900戸	いる	3 50.00%	2 33.33%	0 0.00%	1 16.67%	6 100.00%
	いない	1 25.00%	2 50.00%	1 25.00%	0 0.00%	4 100.00%
	集計	4 40.00%	4 40.00%	1 10.00%	1 10.00%	10 100.00%
901～1000戸	いる	0 0.00%	1 20.00%	0 0.00%	4 80.00%	5 100.00%
	いない	1 50.00%	1 50.00%	0 0.00%	0 0.00%	2 100.00%
	集計	1 14.29%	2 28.57%	0 0.00%	4 57.14%	7 100.00%
1001戸以上	いる	4 19.05%	11 52.38%	1 4.76%	5 23.81%	21 100.00%
	いない	2 100.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	2 100.00%
	集計	6 26.09%	11 47.83%	1 4.35%	5 21.74%	23 100.00%
総計		435 12.25%	1045 29.43%	779 21.94%	1292 36.38%	3551 100.00%

計では、下記のごときになる。

「積極的に取り組んでいる」、「どちらかと言えば取り組んでいる」を取り組んでいるとし、「どちらかといえば取り組んでいない」「ほとんど取り組んでいない」を取り組んでいないとし、「現在の檀家数」を基準値として再度集計すると、三十一～五十戸は「後継者がいる」でも「後継者がいない」でも取り組んでいないの数値が大きい。五十一戸から二百戸までは、「後継者がいるで取り組んでいない」が「後継者がいるで取り組んでいる」の数値を

	いるで取り組んでいる	いないで取り組んでいる	いるで取り組んでいない	いないで取り組んでいない
31～50戸	80 20.25%	65 16.45%	134 33.92%	116 29.37%
51～100戸	182 27.62%	98 14.74%	223 33.53%	162 24.36%
101～150戸	170 35.77%	51 10.74%	176 37.05%	78 16.42%
151～200戸	109 33.54%	39 12%	124 38.15%	53 16.31%
201～300戸	144 37.8%	45 11.81%	139 36.48%	53 13.9%
301～400戸	104 46.64%	19 8.15%	63 28.25%	37 16.59%
401～500戸	46 42.99%	7 6.54%	42 39.25%	12 11.21%
501～601戸	23 45.1%	6 11.76%	12 23.53%	10 19.61%

超えている。二百一戸以上は「後継者がいるで取り組んでいる」がモード（最頻値）となっている。

ただし、「後継者がいるで取り組んでいる」が、「後継者がいるで取り組んでいない」より二〇%近く上になるのは、三百一～四百戸、五百一～六百戸であり、戸数が大きく関わると考えられる。総じて取り組みに関しては、後継者の有無による差よりも戸数の差の方が関わりが強いと考えられる。

次に「地域コミュニティ活動への取り組み」の効果と「現在の檀家数」との兼ね合いで検討してみたいと考えた。そこで下記のデーター Q3「現在の檀家数」×Q29「地域コミュニティ活動への取り組み」×Q4「檀家増減の有無」の三次クロスを行った。

「積極的に取り組んでいる」「どちらかといえば取り組んでいる」を取り組んでいるとし、「どちらかといえば取り組んでいない」「ほとんど取り組んでいない」を取り組んでいないとし、檀家数が五十～百戸、百一～百五十戸、百五十一～二百戸、二百一～三百戸、三百一～四百戸、四

		増加した	減少した	変わらない	総 計
なし	積極的に取り組んでいる	0 0.00%	0 0.00%	5 100.00%	5 100.00%
	どちらかといえば取り組んでいる	0 0.00%	1 6.67%	14 93.33%	15 100.00%
	どちらかといえば取り組んでいない	0 0.00%	0 0.00%	14 100.00%	14 100.00%
	ほとんど取り組んでいない	0 0.00%	8 7.69%	96 92.31%	104 100.00%
	集 計	0 0.00%	9 6.52%	129 93.48%	138 100.00%
1～10戸	積極的に取り組んでいる	6 28.57%	4 19.05%	11 52.38%	21 100.00%
	どちらかといえば取り組んでいる	11 23.40%	12 25.53%	24 51.06%	47 100.00%
	どちらかといえば取り組んでいない	5 13.51%	11 29.73%	21 56.76%	37 100.00%
	ほとんど取り組んでいない	14 9.46%	61 41.22%	73 49.32%	148 100.00%
	集 計	36 14.23%	88 34.78%	129 50.99%	253 100.00%
11～30戸	積極的に取り組んでいる	9 21.43%	17 40.48%	16 38.10%	42 100.00%
	どちらかといえば取り組んでいる	20 19.61%	55 53.92%	27 26.47%	102 100.00%
	どちらかといえば取り組んでいない	19 21.59%	36 40.91%	33 37.50%	88 100.00%
	ほとんど取り組んでいない	25 12.76%	98 50.00%	73 37.24%	196 100.00%
	集計	73 17.06%	206 48.13%	149 34.81%	428 100.00%
31～50戸	積極的に取り組んでいる	10 23.26%	24 55.81%	9 20.93%	43 100.00%
	どちらかといえば取り組んでいる	25 24.75%	46 45.54%	30 29.70%	101 100.00%
	どちらかといえば取り組んでいない	19 20.00%	50 52.63%	26 27.37%	95 100.00%
	ほとんど取り組んでいない	21 13.55%	72 46.45%	62 40.00%	155 100.00%
	集 計	75 19.04%	192 48.73%	127 32.23%	394 100.00%

		増加した	減少した	変わらない	総 計
51～100戸	積極的に取り組んでいる	21 24.14%	34 39.08%	32 36.78%	87 100.00%
	どちらかといえば取り組んでいる	44 22.68%	82 42.27%	68 35.05%	194 100.00%
	どちらかといえば取り組んでいない	31 19.38%	70 43.75%	59 36.88%	160 100.00%
	ほとんど取り組んでいない	42 18.50%	115 50.66%	70 30.84%	227 100.00%
	集 計	138 20.66%	301 45.06%	229 34.28%	668 100.00%
101～150戸	積極的に取り組んでいる	26 42.62%	17 27.87%	18 29.51%	61 100.00%
	どちらかといえば取り組んでいる	44 27.50%	68 42.50%	48 30.00%	160 100.00%
	どちらかといえば取り組んでいない	34 28.10%	44 36.36%	43 35.54%	121 100.00%
	ほとんど取り組んでいない	31 23.48%	43 32.58%	58 43.94%	132 100.00%
	集 計	135 28.48%	172 36.29%	167 35.23%	474 100.00%
151～200戸	積極的に取り組んでいる	16 44.44%	6 16.67%	14 38.89%	36 100.00%
	どちらかといえば取り組んでいる	35 31.25%	42 37.50%	35 31.25%	112 100.00%
	どちらかといえば取り組んでいない	17 23.94%	27 38.03%	27 38.03%	71 100.00%
	ほとんど取り組んでいない	33 30.84%	32 29.91%	42 39.25%	107 100.00%
	集 計	101 30.98%	107 32.82%	118 36.20%	326 100.00%
201～300戸	積極的に取り組んでいる	28 53.85%	12 23.08%	12 23.08%	52 100.00%
	どちらかといえば取り組んでいる	50 36.23%	45 32.61%	43 31.16%	138 100.00%
	どちらかといえば取り組んでいない	32 35.56%	28 31.11%	30 33.33%	90 100.00%
	ほとんど取り組んでいない	30 29.41%	33 32.35%	39 38.24%	102 100.00%
	集 計	140 36.65%	118 30.89%	124 32.46%	382 100.00%

		増加した	減少した	変わらない	総 計
301～400戸	積極的に取り組んでいる	18 56.25%	7 21.88%	7 21.88%	32 100.00%
	どちらかといえば取り組んでいる	47 51.65%	18 19.78%	26 28.57%	91 100.00%
	どちらかといえば取り組んでいない	18 40.91%	7 15.91%	19 43.18%	44 100.00%
	ほとんど取り組んでいない	18 32.14%	14 25.00%	24 42.86%	56 100.00%
	集 計	101 45.29%	46 20.63%	76 34.08%	223 100.00%
401～500戸	積極的に取り組んでいる	8 36.36%	9 40.91%	5 22.73%	22 100.00%
	どちらかといえば取り組んでいる	15 48.39%	6 19.35%	10 32.26%	31 100.00%
	どちらかといえば取り組んでいない	12 44.44%	6 22.22%	9 33.33%	27 100.00%
	ほとんど取り組んでいない	17 62.96%	5 18.52%	5 18.52%	27 100.00%
	集 計	52 48.60%	26 24.30%	29 27.10%	107 100.00%
501～600戸	積極的に取り組んでいる	7 58.33%	0 0.00%	5 41.67%	12 100.00%
	どちらかといえば取り組んでいる	11 64.71%	1 5.88%	5 29.41%	17 100.00%
	どちらかといえば取り組んでいない	7 50.00%	4 28.57%	3 21.43%	14 100.00%
	ほとんど取り組んでいない	2 25.00%	3 37.50%	3 37.50%	8 100.00%
	集 計	27 52.94%	8 15.69%	16 31.37%	51 100.00%
601～700戸	積極的に取り組んでいる	4 80.00%	0 0.00%	1 20.00%	5 100.00%
	どちらかといえば取り組んでいる	8 72.73%	1 9.09%	2 18.18%	11 100.00%
	どちらかといえば取り組んでいない	1 20.00%	1 20.00%	3 60.00%	5 100.00%
	ほとんど取り組んでいない	1 20.00%	1 20.00%	3 60.00%	5 100.00%
	集 計	14 53.85%	3 11.54%	9 34.62%	26 100.00%

		増加した	減少した	変わらない	総 計
701～800戸	積極的に取り組んでいる	4 80.00%	1 20.00%	0 0.00%	5 100.00%
	どちらかといえば取り組んでいる	3 37.50%	3 37.50%	2 25.00%	8 100.00%
	どちらかといえば取り組んでいない	2 28.57%	1 14.29%	4 57.14%	7 100.00%
	ほとんど取り組んでいない	0 0.00%	0 0.00%	1 100.00%	1 100.00%
	集 計	9 42.86%	5 23.81%	7 33.33%	21 100.00%
801～900戸	積極的に取り組んでいる	3 75.00%	1 25.00%	0 0.00%	4 100.00%
	どちらかといえば取り組んでいる	2 50.00%	0 0.00%	2 50.00%	4 100.00%
	どちらかといえば取り組んでいない	0 0.00%	0 0.00%	1 100.00%	1 100.00%
	ほとんど取り組んでいない	0 0.00%	1 100.00%	0 0.00%	1 100.00%
	集 計	5 50.00%	2 20.00%	3 30.00%	10 100.00%
901～1000戸	積極的に取り組んでいる	1 100.00%	0 0.00%	0 0.00%	1 100.00%
	どちらかといえば取り組んでいる	2 100.00%	0 0.00%	0 0.00%	2 100.00%
	ほとんど取り組んでいない	2 50.00%	2 50.00%	0 0.00%	4 100.00%
	集 計	5 71.43%	2 28.57%	0 0.00%	7 100.00%
1001戸以上	積極的に取り組んでいる	3 50.00%	1 16.67%	2 33.33%	6 100.00%
	どちらかといえば取り組んでいる	6 54.55%	2 18.18%	3 27.27%	11 100.00%
	どちらかといえば取り組んでいない	1 100.00%	0 0.00%	0 0.00%	1 100.00%
	ほとんど取り組んでいない	3 60.00%	2 40.00%	0 0.00%	5 100.00%
	集 計	13 56.52%	5 21.74%	5 21.74%	23 100.00%
総 計		924 26.17%	1290 36.53%	1317 37.30%	3531 100.00%

百一～五百戸の六段階で分類してみると下記のような結果となる。

五十一～二百戸は「取り組まないで減」がモード（最頻値）であるが、百五～二百戸ではどれもさして変わらない。二百一戸以上では、「取り組んで増」がモードとなり、三百一～四百戸では「取り組んで増」が、「取り組まないで増」より一〇%以上数値が高くなっている。戸数が増えるほど取り組んでいるが増えているが、四百一～五百戸では「取り組まないで増」がモードとなっている。

上記のデータの結果では、「地域コミュニティ活動への取り組み」があらうとなかろうと檀家数が多ければ、檀家は増えやすく、檀家が少なければ減りやすいといえ、もともとの檀家数の方が「地域コミュニティ活動への取り組み」の有無より影響も大きいように思われる。

おわりに

「地域コミュニティ活動への取り組み」は本来、後継者の有無によって行われる、行われないうちが起ころべきものではないのかもしれない。また、取り組みによる副次的結果として檀家数の増加が起こったり、減少が防止

	取り組んでいるで増	取り組んでいるで減	取り組まないで増	取り組まないで減
51～100戸	65 9.73%	116 17.37%	73 10.93%	185 27.69%
101～150戸	70 14.77%	85 17.93%	65 13.71%	87 18.35%
151～200戸	51 15.64%	48 14.72%	50 15.34%	59 18.1%
201～300戸	78 20.42%	57 14.92%	62 16.23%	61 15.97%
301～400戸	65 29.15%	25 11.21%	36 16.14%	21 9.42%
401～500戸	23 21.45%	15 14.02%	29 27.11%	11 10.28%

されたりするのであり、それを目的に行うというのは実は問題があるし、地域住民もそれは見透かしてしまおうである。

世襲化を肯定的に捉えるならば、世襲に値する寺院とは魅力ある寺院ともいえるし、廃寺・代務寺は魅力の少ない寺院と言えるのかもしれない。それ故に地域コミュニティ活動への取り組みのモチベーションの増加には、後継者の有無は少なからず影響があると考えたが、それ以上に檀家戸数の影響が大きいと言える。

私自身は「地域コミュニティ活動への取り組み」は葬式仏教への取り組みにおいても有益だと考える。

資料⑨ 小谷みどり『葬式仏教の公益性』（臨床仏教研究所編『なぜ寺院は公益性を問われるのか』二〇〇九年 白馬社 一五七頁）では下記の如き指摘をしている。

多くの檀家寺は、それを支える檀信徒なしには存在し得ない。そうであれば、時代や社会に応じて変化する顧客のニーズを察知し、迅速に対応できる寺院でなければ、淘汰されてしまうのは必至である。社会の変化に無条件に迎合すべきであるという意味ではなく、社会や意識の変化の裏側にある「本音の問題」を探り、仏教者として何ができるのかを考えることが求められている。そのためには、アンテナを張って、社会の変化を察知できなければならない。

アンテナの張り方は様々であり、必ずしも「地域コミュニティ活動への取り組み」が必要というわけではない。人それぞれの方法でよいと思うが、選択肢の一つとしては存在しようと思われる。